

檜葉町の概要



【人口・町内居住者】

檜葉町人口 6,892名(2,914世帯) (平成31年4月30日現在)
うち町内居住者数 3,729名(1,874世帯) (町内居住率:54.1%)

<町民居住地分布>

県内 6,324名(91.5%)	県外 568名(8.5%)
いわき市 2,657名	茨城県 168名
郡山市 79名	埼玉県 76名

○学校教育の現状と取組み

- 小学校と中学校は同一の校舎(中学校校舎)で連携教育を実施。

	震災前 (H22年度末)	町内再開 (29年4月)	現 状 (H31年4月)
小・中学校	686人	105人	109人
うち小学生	432人	62人	82人
うち中学生	254人	43人	27人
こども園	247人	38人	85人

檜葉南北小学校・中学校



あおぞらこども園



【檜葉独自の新たな取組み】

- **中学生によるまちづくりチーム「中学生室」の結成**

- ・町役場に「中学生室」を設置し、中学生メンバーが、町との意見交換や、行政・事業所等と連携した取組みを実践。

- **中学生のキャリア教育(模擬会社)**

- ・中学生が模擬会社を設立し、町の特産品を活用した商品を開発。
東京の福島県アンテナショップで販売体験学習を実施。



○生涯学習環境の整備

【檜葉町地域文化交流拠点「檜葉まなび館」】

- 檜葉南小学校の校舎を活用し、「檜葉まなび館」を平成28年7月にオープン。生涯学習の拠点として、町民が様々な活動に利用。



【活動サークル】

- ・わらじ組 ・和布細工工房ほのぼの ・なにかし隊 ・藍染会 ・天神太鼓
- ・天神龍舞(よさこい) ・華鶴会(日本舞踊) ・老人クラブ連合会 など

【利活用事例】

家庭科室を活用した藍染活動



図書室を利用した学習会



体育館を利用したレクリエーション



○まちづくり会社「ならはみらい」の取組み

【檜葉町活性化協議会】

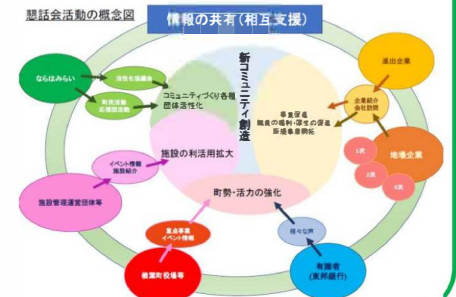
- 檜葉町内の企業・団体が連携し、町の活性化に向けた横断的な取組みを行う組織を平成29年4月に設立。
- 「みらい輝く、ならはまちへ！」をスローガンに、町民による活動の活性化や交流拡大、ふるさととのきずな継続のために取組む。



<町主催イベントに協力>

【新たなコミュニティ形成のための懇話会】

- 町の活性化を担う各種団体や町内に立地する企業・事業所等が集う懇話会を平成31年4月に設立。
- 様々な観点・角度からの意見交換や、情報共有、相互支援により、新たなコミュニティ形成につなげる。



ならは復興MAP



ならはスカイアリーナ(屋内体育施設)

○榊葉町総合グラウンド内に、体育館及び屋内プール、フィットネスジム、キッズルームを有する屋内体育施設が完成。
○平成31年4月14日オープン



ならはスマートI.C

平成31年3月21日供用開始
○地域経済の活性化 ○避難経路の確保
○救急救命活動の向上



榊葉北産業団地

○新たな企業の誘致



竜田駅周辺整備

○竜田駅東側
・東西自由通路・橋上駅舎の整備
→令和2年度供用開始予定
・駐車・乗降場がある駅前広場の整備
・廃炉関連事業所及び宿舍等を整備
○竜田駅西側
・まちづくり計画の策定



井出川～井出地区海岸

○堤防復旧工事が完了(H32.3月)



天神岬スポーツ公園

○平成28年3月遊具リニューアル



天神温泉しおかぜ荘

○平成27年9月再開



木戸川河口部

○堤防復旧工事が完了(H30.3月)



新生Jヴィレッジ

○平成30年7月28日に一部営業再開。同年9月に全天候型練習場オープン
○平成31年4月20日全面再開(イベントへ2万人が来場)



ならはCANvas

○平成30年7月30日オープン



笑ふるタウンならは

○災害公営住宅140戸ほか宅地分譲地を販売中(2工区)
○商業施設は、平成30年6月26日オープン
○ふたばリカーレ、蒲生歯科が開業中



道の駅ならは

○温泉保養施設とフードコートが完成し、平成31年4月25日リニューアルオープン
○物産館はH31年度復旧予定



水稻育苗センター

○良質な苗を育て農家に販売支援を行う
○100ha、2万箱の処理能力を有する
○平成31年4月16日完成



カントリーエレベーター

○米の乾燥、貯蔵、調製、出荷までを一貫して行う
○300ha分の水稻を処理できる
○平成31年4月16日完成



木戸川の鮭漁の再開

○平成28年度に鮭ふ化施設を復旧し稚魚の放流を実施



榊葉南工業団地

○新たな企業の誘致
○榊葉遠隔技術研究センター



Jヴィレッジ駅(臨時駅)

○平成31年4月20日開業

